

優秀賞

小学生部門

橋本市立あやの台小学校5年

俵 和花

じいじの時計

「できなくても、一生けん命がんばれ」

この言葉が口ぐせだったじいじ。私は、じいじの事が大好きでした。

じいじの病気が分かったのは五才の時。一緒に走り回って遊んでくれたじいじなのに、だんだん元気がなくなってきました。

「ランドセル背負った和花を見たいから、もう少しがんばらなあかな」と言って、生きるために最後まで一生けん命がんばってがんばって、じいじは亡くなりました。

そして、じいじが毎日つけていたうで時計が私への最後のプレゼントになりました。

じいじがいなくなっても何もなかったように元気に動きつづけているうで時計。私は、それを見る事が悲しかったのですが、時間がたつにつれて、うで時計が、まるでじいじのように思えてきました。

そのころから、私は、「がんばりたい時」「見守ってほしい時」には、じいじの時計をポケットの中に入れて、こっそり持っていきます。学校へ行く時には、誰にも分からないように、そっとランドセルの中に入れていきます。すると「できなくても一生けん命がんばれ」と、じいじが横で言ってくれている気がして、私の不安な気持ちや、きんちようが少しずつ小さくなり「絶対できる」と自分に自信がもてます。このじいじのパワーに応えんしてもらって、うまくいったことが何度もあります。

私にとって、このじいじの時計は、不思議な力を持った、まほうの時計なのです。

でも、この時計は、一生けん命に、私もがんばらないと、まほうがききません。私が少しさぼってしまうと、うまくいかず、後から「一生けん命がんばれ」というじいじの声が聞こえてくる気がします。

力いっぱい生きぬいたじいじから「和花、一生けん命よくがんばったな」と言ってもらえるように、私も、今を一生けん命に生きていきたいです。